

日本民俗学会 第71回年会 茨城

第2回 サーキュラー

先般、日本民俗学会第71回年会の案内をさしあげましたところ、約280名の参加申し込み、ならびに約110名の発表申し込みをいただきました。心よりお礼申し上げます。

さて、このほど年会の詳細が決まりましたので、第2回サーキュラーをお届けいたします。つきましては、参加費等のお振込みや発表要旨のご提出など、期日までのお手続きを何卒よろしくお願い申し上げます。

日本民俗学会第71回年会実行委員会

主催 一般社団法人日本民俗学会

協力 一般社団法人つくば観光コンベンション協会・つくば市

期日 2019年10月12日(土)・13日(日)

会場 筑波大学春日キャンパス(茨城県つくば市春日1-2)

※同日、茨城県内で、第19回全国障害者スポーツ大会(いきいき茨城ゆめ大会)が開催されるため、宿泊施設の不足が予想されます。早めの予約をお願いいたします。実行委員会では、宿泊等の斡旋は行いません。

会場アクセス

- ・ 鉄道(つくばエクスプレス):秋葉原駅より快速に乗車(45分)、つくば駅下車。
- ・ 高速バス(つくば号):東京駅八重洲南口高速バスターミナル発「つくばセンター・筑波大学」行きに乗車(約70分)、「つくばセンター」下車。
- ・ 飛行機:羽田空港・成田空港から高速バスに乗車(約100分)、「つくばセンター」下車。
- ➡ いずれもつくば駅(A1、A2出口)・つくばセンターから徒歩約10分。
- ・ 鉄道(JR常磐線):ひたち野うしく駅・土浦駅下車、「つくばセンター」行きバスに乗車(約30分)、「つくばセンター」下車、徒歩5分。または「筑波大学中央」行きバスに乗車(約35分)、「筑波大学春日エリア前」下車、徒歩約5分。

※会場への経路図等は第3回サーキュラーに掲載します。

※筑波大学ウェブサイトの交通アクセスのページもご参照ください。

車でお越しの際は近隣の民間の駐車場をご利用ください。

<http://www.slis.tsukuba.ac.jp/grad/access/access/>

右記のQRコードからもアクセスできます。



年会事務局

〒305-8571 茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学人文社会系
歴史・人類学専攻 気付 日本民俗学会第71回年会実行委員会事務局 行

※学内での郵便事故に備え、上記宛名は省略せずにお書きください。

連絡はなるべくE-mailでお願いします。

E-mail: minzokugaku2019tsukuba@gmail.com

プログラム

10月12日(土)

9:00~9:30	理事会
9:45~12:00	評議員会
12:00~	受付開始
13:00~16:00	公開シンポジウム 「あしもとの歴史を見つめる—語り、書き、あらわす」
16:15~17:50	研究奨励賞授賞式・会員総会
18:00~20:00	懇親会

10月13日(日)

9:00~	受付開始
9:30~12:00	研究発表(午前)
12:00~13:00	昼食
13:00~16:30	研究発表(午後)

※ 今年度の年会は、見学会を企画しておりません。

※ 開始・終了時刻は現時点での予定です。発表プログラムは9月下旬に参加等申込者に送付する予定の第3回サーキュラーでお知らせいたします。

参加費

年会参加費	前払い	当日	
会員(一般)	4,000円	5,000円	
会員(学生)	2,000円	3,000円	
非会員(一般)	—	5,000円	(当日受付のみ)
非会員(学生)	—	3,000円	(当日受付のみ)
懇親会参加費	前払い	当日	
会員(一般)	5,000円	6,000円	
会員(学生)	2,500円	3,000円	
非会員(一般)	—	6,000円	(当日受付のみ)
非会員(学生)	—	3,000円	(当日受付のみ)
13日(日) 弁当代	700円	—	(当日販売なし)

※ 会場最寄り駅周辺には飲食店・コンビニがいくつかありますが、大学内の食堂は土日とも閉店しておりますので、弁当の事前申し込みか持参をおすすめします。

※ 前払いの会員「学生」料金は、日本民俗学会の2019年度(2018年9月~2019年8月)会費を「学生」料金で納めている会員に適用されます。当日の「学生」料金は、会員・非会員を問わず、年会当日、学生証を提示した方に適用します。

参加費納入方法

同封の「払込取扱票」に、納入金額の内訳、合計金額等必要事項をご記入のうえ、下記の「ゆうちょ銀行」振替口座にお振り込みください。払込手数料につきましては、恐れ入りますがご負担願います。

【口座（記号）番号】 00250-7-106133

【加入者名】 日本民俗学会第 71 回年会実行委員会

- 万一、同封の「払込取扱票」を紛失された場合は、郵便局の払込用紙（青色）の通信欄に、納入金額の内訳（年会参加費・懇親会参加費・13日（日）弁当代等の別）を必ずご記入のうえ、払い込んでください。
 - 年会参加費等の納入期限は 8 月 16 日（金）です。期日にて振込み口座を閉鎖いたしますので、それ以降は年会当日に当日料金でお支払ってください。
 - 一度納入いただいた参加費等は、いかなる理由があっても返却できません。あしからずご了承ください。
 - 期限までに参加費等の納入がなかった場合、名札の事前用意や発表要旨集・弁当の取り置きはいたしません。
- ※ 発表を申し込まれた方が期限までに年会参加費を納入いただかなかった場合、発表辞退として扱われますので、十分ご注意ください。

要旨集

- 年会には参加されないが、要旨集の購入を希望される方は、要旨集の代金 1,500 円とレターパックライトでの送料 370 円、合わせて 1,870 円を 8 月 16 日（金）までに納入してください。払込取扱票の通信欄には「要旨集購入希望」と書いてください。年会終了後、要旨集を送りいたします。
- 要旨集の内容は、年会より前（9 月）に年会ウェブサイト上で PDF ファイルで公開します。年会終了後も当分の間、掲載を続けます。

発表要旨の提出

一般発表、グループ発表に申し込まれた方は、全員が「研究発表要旨」と「研究発表登録票」を年会実行委員会事務局へメールで提出する必要があります。「研究発表要旨」は年会ウェブサイト上にあるひな形のファイルをダウンロードし、下記の執筆要領を参照して作成してください。「研究発表登録票」も年会ウェブサイト上にあるファイルをダウンロードして、必要事項を記入してください。「研究発表要旨」と「研究発表登録票」とを合わせて、以下の形式でお送りください。

【送付期限】8月16日(金) 24時必着

【送付先アドレス】fsj2019abs@gmail.com(年会実行委員会事務局要旨受付担当)

※ 研究発表要旨と研究発表登録票を受け付ける専用のアドレスで、年会実行委員会事務局のアドレスとは異なります。

【メール件名】発表要旨(発表者氏名)

【ファイル名】要旨(発表者氏名)、登録票(発表者氏名)

【ファイル形式】要旨:Wordファイル(.docx) 登録票:PDFまたはWordファイル

※ 期限までに発表要旨を提出されなかった場合、発表辞退として扱われます。

発表要旨執筆要領

【ファイル形式】Microsoft Word ファイル(.docx)

【ページ設定】A4 縦長 1 頁、横書き、43 字× 38 行、余白(上下左右)25mm

【フォント】和文/英数字: MS 明朝(印刷時は視認性のよい游明朝体に変更されます)

【フォントサイズ】発表題目(副題も):12pt(太字)、氏名・所属等・本文:10.5pt

【発表題目・氏名・所属等】ページ最上部中央に発表題目を 12pt のフォントサイズ、太字で記載してください。副題がある場合は、そのすぐ下に同じく 12pt の太字で記載してください。副題を含め、発表題目は「研究発表登録票」記載のものと必ず一致させてください。発表題目の次の行を 1 行あけてから、発表題目の下中央に 10.5pt で氏名を記載し(姓と名の間を 1 字あけてください)、その右側にかっこ書きで所属等を記載してください(所属等の記載にあたっては、サーキュラー最終頁の「所属の表記について」をご参照ください)。

【要旨本文】要旨本文は発表者氏名より 1 行あけて書き始めてください。フォントサイズは 10.5pt です。図表の挿入は可能ですが、写真の挿入はお控えください。なお、出来上がりは白黒印刷になります。

※ 誤字などの単純なミスについては、発表者に断ることなく、実行委員会で訂正しますので、予めご了承ください。

※ 執筆要領の設定に従っていない場合、実行委員会で体裁を調整します。その結果、文字数が 1 頁を超える時は、そこで機械的に切りますので、文字数の超過には十分ご注意ください。

※ 一般発表は発表 20 分・質疑応答 5 分・移動 5 分を 1 ユニットとします。グループ発表については「グループ発表要旨の提出」を参照してください。

※ 発表内容は未発表のものに限ります。重複発表が判明した場合は、参加費の納入の如何にかかわらず、発表をお断りすることとなります。

グループ発表要旨の提出

グループ発表の代表者は、個別の「研究発表要旨」とは別に、グループ発表全体についての要旨（「グループ発表要旨」）を期日までにご提出ください。書式は「研究発表要旨」と同一です。

【送付期限】 8月16日（金） 24時必着

【送付先アドレス】 fsj2019abs@gmail.com（年会実行委員会事務局要旨受付担当）

※ 研究発表要旨と研究発表登録票を受け付ける専用のアドレスで、年会実行委員会事務局のアドレスとは異なります。

【メール件名】 グループ発表要旨（代表者氏名）

【ファイル名】 グループ発表要旨（代表者氏名）

【ファイル形式】 Word ファイル (.docx)

使用機材

備え付けの機材は、PC(Windows)とPC用液晶プロジェクターです。PC(Windows、Mac)の持ち込みも可能です。その場合は、「研究発表登録票」の使用機材欄にその旨をご記入のうえ、PC本体および対応するアダプターをお持ち込みください。発表の形式によっては、備え付けのPCで対応できない場合があります。無線LANは、eduroamの利用が可能です。詳細は所属機関でお尋ねください。

保育室の申込み

今年度の年会では筑波大学春日キャンパス内に保育室を開設します。保育サービスは株式会社ママMATEへ委託します。0歳3ヶ月から小学6年生までのお子様をお預かりいたします。上記年齢以外での希望がありましたら、年会事務局へご相談ください。利用申し込み方法などの詳細は8月上旬に年会ウェブサイトに掲載します。

書籍販売の申込み

会場に書籍販売コーナーを設けます。販売を希望される会員・研究会・出版社・団体は、下記の要領でお申し込みください。委託販売はお受けできません。会場の都合で十分なスペースを確保できない場合も予想されます。予めご了承ください。販売は10月12日、13日に限ります。

【申し込み方法】

年会ウェブサイト上の「書籍販売登録票」に記入のうえ、9月6日（金）までに年会実行委員会事務局 (minzokugaku2019tsukuba@gmail.com) 宛にPDFまたはWordファイルでお送りください。その際、メールの件名は「書籍販売希望（会員・研究会・出版社・団体名）」としてください。

【出展費用について】

- 会員個人 無料
- 会員の所属する研究会・学会 無料
- 2019年度(2018年9月～2019年8月)協賛団体 無料

- 協賛団体ではない出版社・団体の社員が会員である場合 無料
- 公共団体職員が機関の刊行物を販売する場合
(職員であることを証明できることが条件)..... 無料
- 社員が会員でない場合 販売担当者の人数によらず、出展費用 3,000 円を申し受けます。受付で当日、お支払いください。
- ※ 懇親会については、会員以外は 1 人につき非会員(一般)参加費 6,000 円を受付で当日、お支払いいただくことにより参加可能とします。

【搬入・搬出など】

書籍の搬入・搬出方法など、詳細は「書籍販売登録票」をお送りいただいた後に事務局からお送りする「書籍販売の手引き」でご説明いたしますので、それに従ってください。

広告の募集

発表要旨集への広告掲載を希望される方は、8月9日(金)までに年会実行委員会事務局要旨集担当 (fsj2019abs@gmail.com) 宛にメールで詳細をお問い合わせください(メールの件名は、「広告掲載の問い合わせ」としてください)。年会実行委員会から「広告掲載のお願い」の文書を受けとられた出版社・団体は、このお問い合わせは不要です。

今後の日程

広告募集期限	8月9日(金)
参加費等納入期限	8月16日(金) ※以降は当日料金
研究発表登録票・発表要旨提出期限	8月16日(金)
書籍販売申し込み期限	9月6日(金) 書籍販売登録票提出
第3回サーキュラー	9月下旬発送予定(参加等申し込みの方のみ)
内容：会場案内、発表要領、各発表会場プログラム	

公開シンポジウム

あしもとの歴史を見つめる—語り、書き、あらわす

主旨

民俗学では古くから人びとの歴史を記述するという営為を行ってきた。これは人びとが語り、書き、実践し、表現する歴史自体に価値を見出すというまなざしに特徴をもっている。また、今日の民俗学では、人びとの歴史や人生の語りなどを扱うことが方法論的に見直される機運が改めて高まっている。2019年は、新たな元号を迎える年となったが、同じく、昭和という時代を迎えたばかりの1930年、柳田國男は『明治大正史世相篇』を著した。そこで柳田は、人びとの日々の暮らしや人生が記録されずに忘れ去られることを恐れ、些末な物事こそを丁寧に記述していくことを試みた。その6年後に生まれた宮田登は、後年、歴史の主体を生活する人びとそのものに置く「民俗的歴史」論を掲げていく。時を同じくして高度経済成長の中で生活や地域を見つめる視点から市民運動が盛んになり人びとが歴史の主体となっていく。しかし、その後のバブル経済とその崩壊の中で社会は急激に変化し、人びとの価値観も多様化し、地域の歴史や文化も一つのものとしては語れなくなっていく。また、現代の生活は、就学や仕事の都合で生まれ育った地域から移動、転居することも多く、地域の歴史や個人の暮らしは仮想空間を含めた様々な時や場で断片的に語られ、再編され、意味づけられ、あるいは忘れられていく。こうした現状の中で、私たちは、民俗学の立場から改めて人びとの暮らしや人生、地域の成り立ちといったあしもとの歴史を振り返る必要があるのではないだろうか。

民俗学では、語られる声、書かれた文字、モノや空間、行為としてあらわれるものに着目し、人びとの暮らしや人生といったあしもとの歴史と民俗とを相互の関連の中で厚く記述し続けてきた。他方、社会学や心理学においても臨床的研究やナラティブアプローチによる生活史の中で人びとのあしもとの歴史が記述されてきた。語りについての議論は、そこから歴史を再現するだけでなく、その底流に流れる人びとの意識を紡ぎ、文字文化に関する議論は、文字が単なる「史実」をあらわす媒体ではなく、時代状況の中に生きる人びとが伝え受け継いできた文化そのものであることを明らかにした。アメリカでは歴史学や考古学とも連動するパブリック・ヒストリーが台頭したが、日本においても公共性や社会实践の視点から博物館や教育・行政機関との連携の中で人びとが主体となる歴史を踏まえた実践的な民俗研究が進められている。あるいは、文化財保護法が文化財の「活用」に大きく舵をとった現在、地域の生活の中で受け継がれてきたあしもとの歴史はどのようにあらわされるのか。民俗を生み出し、伝承し、実践する主体としての人びとが共有する歴史とそれに基づく様々な実践と表現について、今日の民俗学からはどのようなアプローチが可能なのであろうか。今、あらためて民俗学が記述してきたあしもとの歴史を問うことで議論を深めていきたい。

日時 2019年10月12日(土) 13:00～16:00

会場 筑波大学春日キャンパス(茨城県つくば市春日1-2)

パネリスト等

主旨説明	古家信平(筑波大学名誉教授)
パネリスト	東資子(一関市教育委員会)
	小池淳一(国立歴史民俗博物館・総合研究大学院大学)
	清水満幸(萩博物館)

コメンテーター 門田岳久（立教大学）
岸政彦（立命館大学）
山中弘（筑波大学特任教授・日本宗教学会会長）（順不同）

所属の表記について

すでに会誌『日本民俗学』や日本民俗学会ホームページに掲載してお知らせしてありますとおり、第29期理事会は、2014年7月13日に「日本民俗学会会員の属性、帰属意識の多様性の尊重に関する声明」を公表しております。

この声明にもとづき、第67回年会から、参加登録の際の記名、名札、発表要旨集、会場配布レジュメ、質疑応答等での所属・肩書き・立場性の表明は、各人の帰属意識に基づいて主体的かつ自由に表明していただくことになりました。

参加登録の際の「所属」欄をはじめ、発表要旨集、会場配布レジュメ、質疑応答等での所属・肩書き・立場性の表明は、たとえば、つぎのようにお願いいたします。なお、所属・肩書き・立場性の表明は、原則として一人一つでお願いします。

例：山田 太郎（〇〇市立博物館）、山田 花子（〇〇大学大学院生）、山田 太郎（〇〇民俗学研究会）、山田 花子（〇〇県）、山田 太郎（NPO 法人〇〇）、山田 花子（自営業）、山田 太郎（株式会社〇〇）、山田 花子（会社員）、山田 太郎（インディペンデント・フォークロリスト）、山田 花子（〇〇大学非常勤講師）など

<参考>

日本民俗学会会員の属性、帰属意識の多様性の尊重に関する声明

日本民俗学会は、多様な社会や組織に帰属し、多様な帰属意識を有する人びとによって生み出され、発展されてきた歴史をもつ。この会員の属性、帰属意識の多様性は、現在でも顕著であり、日本民俗学会の大きな特徴となっている。私たちは、この会員の属性、帰属意識の多様性を尊重する。

さらに私たちは、日本民俗学会の活動の場において、会員が自己の所属、肩書き、立場性等を、各人の帰属意識に基づいて主体的に表明する自由を保障する。

2014年7月13日
第29期日本民俗学会理事会